

研究の概要

市川市における「介護リテラシー」に関する調査研究

千葉商科大学商経学部 齋藤香里

本研究では、高齢者、要介護者そして認知症患者が抱える問題を知り、介護保険制度および介護についての基礎知識を身につけ、それらの知識を使いこなす能力を「介護リテラシー」と定義し、介護リテラシーとして身につけるべき知識を明確化することを試みた。さらに、市川市の介護の現場で起きている問題点を明らかにした。

調査の実施

介護リテラシーの基礎知識の内容については、理論よりも実状を重視し、聞き取り調査によってその必要事項を明らかにした。

聞き取り調査の対象者は、在宅ならびに施設介護の要介護者及びその家族介護者、ケアマネージャー、ホームヘルパー、ソーシャルワーカー、民生委員などである。合計で20名に聞き取り調査を実施した。

聞き取り調査から得られた結果は、下記の通りである。

(1) 介護・介護保険制度についての事前知識について

介護が身近な問題ではない市民は、介護保険制度や介護サービスの基本的な用語の意味についてさえほとんど知らなかった。さらにその利用についても利用中でありながら理解できていない方も多かった。介護が必要になったら、どこに相談に行けばよいのかについての情報の周知から必要である。

さらに、日本社会において、認知症についての理解が行きわたっていないことが分かった。認知症であることを恥じる傾向にあり、家族に認知症の症状が現れていても認知症と認めようとはしないケースが多くみられた。認知症についての知識の普及が求められる。

介護についての知識は、友人からという方が多かった。介護についての理解すなわち介護リテラシーを市民社会において広める必要性を実感した。

(2) 介護施設の選び方と入所についての事前知識について

有料老人ホーム及び介護施設の入所に際しては、時間的及び金銭的余裕そして医療措置の必要性などさまざまな制約が重なるものであり、事前に準備し調べておく余裕はないケースが大多数であった。また、有料老人ホーム及び介護施設に入所する場合に、入居費用や利用料以外の費用負担があることに注意する必要がある。

(3) 介護サービス事業者から介護保険の利用者に求める事前知識について

介護サービス事業者が利用者に求める事前知識は、介護保険制度の利用に際して知っておくべき基本的な仕組みと認知症についての知識である。

介護リテラシーの定義

リテラシー (literacy) とは、「読み書き能力。また、ある分野に関する知識やそれを活用する能力。」（〔出所〕松村明編 (2014) 『大辞林〔第三版〕』三省堂）のことである。

本研究で、高齢者、要介護者そして認知症患者が抱える問題を知り、介護保険制度および介護についての基礎知識を身につけ、それらの知識を使いこなす能力を「介護リテラシー」と定義する。

「介護リテラシー」は、NPOいちかわライフネットワーククラブ・キャリア介護研究会会長の中川潤一氏（株式会社かいごデザイン代表取締役）が当該研究会での勉強会で名付けた。「介護リテラシー」という用語とその定義はまだ学会や論文で発表されていない。

介護リテラシーとして市民が身につけるべき高齢者の介護問題についての必須の基礎知識は、下記の通りである。

介護保険制度についての基本的な仕組み、介護サービスの種類を知っておくこと。そして、介護保険の介護サービスを利用するときには戸惑わないようになっておくこと。認知症について知り、家族が認知症である場合には、その事実を受け止めて対処すること。市民は介護予防に努めること。もし、介護を要する状態になった場合は、要介護状態の改善に努めること。家族介護者は、介護うつに注意すること。

表1は、介護リテラシーとして身につけるべき知識及び心がけることなどを立場別に分類したものである。

表1 介護リテラシーとして身に着けるべき知識など

立場	介護保険についての理解	介護予防についての理解	認知症についての理解	その他
要介護者	介護保険制度についての基本的な仕組み、介護サービスの種類を知る。	要介護状態の改善に努める。	認知症について知る。家族が認知症である場合には、その事実を受け止めて対処する。	
家族介護者	介護保険の介護サービスを使いこなす。			介護カフェの利用。 介護うつ予防。 介護殺人の防止。
市民	介護保険制度についての基本的な仕組み、介護サービスの種類を知る。介護保険の介護サービスを利用するときには戸惑わないようになっておく。	介護予防に努める。	認知症について知り、認知症サポーターになる。	

(出所) 筆者作成。

介護分野の問題点

さらに、聞き取り調査の結果から下記の点が明らかとなった。

- (1) 市民が広く介護リテラシーについて知ることが必要である。
- (2) 介護職は感謝される仕事である。介護職におけるディーセント・ワークの実現が求められる。
- (3) 市川市において混合介護の導入が望まれる。

本研究の聞き取り調査により、介護の現場の問題及び介護保険制度が抱える課題を明らかにすることができた。これらの諸問題への考察は今後の課題としたい。

なお、本研究の報告書は紀要において発表予定である。

(謝辞)

本研究の聞き取り調査にご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。